

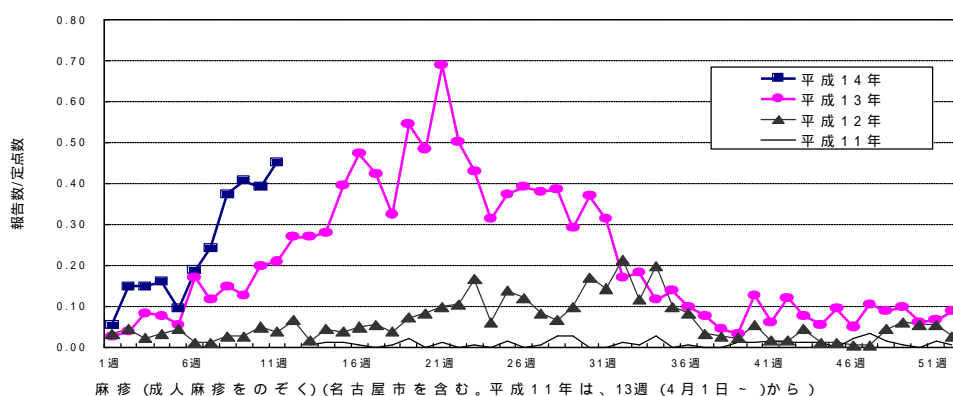
# 愛知県感染症情報

## 平成 14 年第 11 週 ( 3 月第 2 週 )

( コメント )

麻疹は全体的に流行中なので引き続き注意してください。麻疹の予防方法等については、愛知県衛生研究所のホームページ

( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> ) をご覧ください。



( 定点の先生方からのコメント )

- 尾張西部地区
  - ・ インフルエンザが先週と同じ 14 人 ( A 型 10 人、 B 型 4 人 ) とまだあります。麻疹 2 例あり  
( 一宮市 あさのこどもクリニック )
  - ・ 水痘小流行持続しています。( 保育園にて流行 )  
インフルエンザ減少 2 名とも B 型。  
( 一宮市 後藤小児科 )
  - ・ O1 3 歳男、10 歳女、11 歳男、14 歳男 1 名、30 歳男、O18 33 歳男、O86a 11 歳男。以然として病原性大腸菌感染者は多く、又インフルエンザ様の急性胃腸炎も多い。  
( 尾西市 城後小児科 )
  - ・ 肺炎球菌とインフルエンザ菌の混合感染が増えてきました。ロタ様の胃腸炎の他に嘔吐と発熱を主訴とする胃腸炎がはやっています。  
( 犬山市 武内医院 )
  - ・ インフルまた少し見られます。A 型 8 人、B 型 9 人、A 型が少し目立ちます。胃腸炎多発しています。溶連菌続発中。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

- ・ 感染性胃腸炎の流行続いています。A群溶連菌感染症、水痘もやや増加傾向です。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ 1歳9ヵ月女2名、1歳10ヶ月女、2歳5ヵ月女、以上4名何れもロタウイルス(+)でした。

(春日町 丹羽医院)

- ・ インフルエンザA型2名、B型2名。

(新川町 三輪医院)

#### ● 尾張東部地区

- ・ 乳幼児でA型インフルエンザがありますが、学童でのB型インフルエンザはなくなりました。相変わらずマイコプラズマ肺炎がみられます(4~11歳、6名)。ロタウイルスによる胃腸炎も目立ちます。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ インフルエンザの流行は終了したようですが、マイコプラズマ感染症は相変わらず多数みられます。水痘増加傾向です。乳幼児下痢症は散発です。

(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

- ・ ロタ胃腸炎あいかわらず多いです。インフルエンザ減少。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ ロタウイルス腸炎が多く、インフルエンザは減少傾向です。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- ・ 水痘7歳の女子は予防接種済です。

(小牧市 医療法人心正会鈴木小児科)

- ・ インフルエンザは減少してきている。喘息患者増加。溶連菌感染症やや増加。ロタ胃腸炎やや減少。

(小牧市 小牧市民病院)

- ・ ロタ陽性腸炎流行中。インフルエンザA(+)散発

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

- ・ 耳下腺炎 散発

(南知多町 医療法人大岩医院)

#### ● 西三河地区

- ・ A型インフルエンザ(インフルA・Bクイック\*) 10ヶ月男

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

インフルA・Bクイック\*: A型及びB型インフルエンザウイルスを検出す

る迅速診断キットの一種。

- ・ カンピロバクター 2歳男  
(豊田市 医療法人やふそ小児科)
- ・ インフルエンザ A型 4歳男  
(豊田市 岩瀬小児科)
- ・ ロタウイルス 1歳女  
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ インフルエンザ A 10名、B 2名でした。  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 O18 VT (-) 11ヵ月女、O125 VT (-) 11ヵ月女  
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ インフルエンザは A型 7名、B型 3名  
(岡崎市 医療法人川島小児科水野病院)
- ・ カンピロバクター 12歳。病原性大腸菌 O1 VT (-) 6歳  
15人のインフルエンザは A型 6名、B型 8名  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ計 26名中、A型 10名、B型 15名、型不明 1名でした。  
(岡崎市 粟屋医院)
- ・ インフルエンザ A型 5名(1名ワクチン1回接種)、B型 4名(1名ワクチン2回接種)、A型 B型 4名(1名ワクチン2回接種)。  
インフルエンザ A型 B型 11歳男、A型 7歳女は、兄妹で1月に2人とも A型に罹患しています  
(岡崎市 医療法人永坂内科医院)
- ・ いずれもインフルエンザ A型でした  
(岡崎市 村田医院)
- ・ ロタ感染下痢多いです。  
(知立市 宮谷こどもクリニック)
- ・ 特に目立った感染症はありません。  
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 家族内で麻疹の流行がありました。予防接種は受けていません。  
インフル A・B クイック A(+) 3人、B(+) 1人  
(三好町 三好町立三好病院)
- 東三河地区
  - ・ インフルエンザが乳幼児に広がってきました。Bが主流かと思われます。

(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

- ・ インフルエンザの患者さんは減少してきていますが、依然として B 型 (キャピリア\*FluB 陽性) が主体です。

(豊橋市 あずまだこどもクリニック)

キャピリア\*FluA・B: A・B 型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診断キットの一種。

(1~3類感染症の発生状況)

報告はありません。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

報告はありません。

第9週(14年2月25日~3月3日)の4類感染症の全国状況

インフルエンザは東北地方、日本海側の新潟県、石川県から岐阜県、三重県など、中国・四国地方の広島県、愛媛県などで定点当たり報告数が多くなっている。今シーズンは遅めの流行となっているために、例年のこの時期と比べると定点当たり報告数がやや多くなっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっており、山形県で定点当たり報告数5.5、北海道で3.8と多くなっている。感染性胃腸炎は福岡県(定点当たり報告数21.6)、大分県(21.1)などで報告が多くなっている。伝染性紅斑も例年の同時期より定点当たり報告数がやや多くなっている。流行性耳下腺炎は、沖縄県(定点当たり6.1)、山形県(5.7)などで報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2 0 0 2 年 2 月 1 日号 ( 7 7 卷 5 号 )

エボラ出血熱現況：ガボン、コンゴ。1月20日、ガボン当局は確定26例(23例死亡)、疑似22例を報告。1月20日、コンゴのガボン国境地帯で16例(11例死亡)発生、国際チームが地方当局と協力して対策立案中。

野兔病：コソボ共和国。1月24日時点で496例。確定109例。死亡ゼロ。患者の加療と環境整備、住民教育が継続されている。

髄膜炎球菌髄膜炎：ソマリア続報。1月26日時点で67,681名がワクチン接種実施。23の国際チームが参加。

天然痘：ウイルスストック廃棄。現在世界で2カ所(米合衆国とロシア)で維持されている天然痘ウイルスの一時的な保管、廃棄が予定されている02年までに専門家集団による今後の方針討論が定期的実施されている。本報は01年12月3-4日、ジュネーブにおける第3回会議の紹介である。保管数：米合衆国CDCに451株、ロシア国立衛生研究所に50株。実施すべき研究：PCRによる核酸診断。天然痘ウイルスの塩基配列。血清診断。動物実験モデル。薬剤開発。ワクチン開発。WHO事務長、専門家による提言。

インフルエンザ(02年1月)：オーストラリア、フィンランド、ロシア、スペイン、スイス。いずれもA(H3N1)主体。

1月25日-31日届出。コレラ：スワジランド、日本(輸入例)。

2 0 0 2 年 2 月 8 日号 ( 7 7 卷 6 号 )

髄膜炎球菌髄膜炎：ソマリア。1月16日時点で同国保健省に144例(死亡33例)が保健省に報告されている。血清型はWHOの検査でA型。集団予防接種を準備中。

野兔病：コソボ共和国。1月17日までに282例の疑似例(59例確定)の報告があり、死亡例ゼロ。年齢分布は16-44歳。

黄熱病：セネガル。1月18日時点で18例。全例ダカールのパスツール研究所で確認され、発生地区のワクチン集団接種実施中。

南スーダンの緊急事態に対する対応：人口54万を抱える南スーダンでは繰り返される難民移住、部族間の紛争、洪水と干ばつによる飢餓、感染症の大発生などで国全体の危機的状況が発生している。WHOとユニセフはNGO、国際赤十字などの協力のもとに98年、99年から作戦を開始、ここではその状況が報告されている。

インフルエンザ：02年1月。オーストラリア：A型(H3N2)、オーストリア：(A型)、フランス：A(H3N2)主体、イスラエル：A(H3N2とH1N1)、イタリア：A(H3N2)とB型、ロシア：A(H3N2とH1N1)、とB型、スペイン：A型とB型、英国：A(H3N2)型。

日差しが強くなってきて駅のプラットフォームでは階段に座り込んだジベタリアン達が携帯とお菓子をかかえてお喋りしてるのが目立つようになりました。今回もいつものように貴重な情報を有難うございます。2月後半～3月前半のまとめをお送りします。

1.名古屋地区：インフルエンザが市内各地区で発生していますが全市的な特定の型の大発生の傾向はなく、A型>B型。混合流行地区が多く、衛生研究所の検査結果からも特別な変異株ではないようです。合併症として熱性痙攣、気管支炎・肺炎が目立ち、A・B共に陰性の熱性疾患の発生の報告もいただきました。全市的にロタウイルス陽性例を含むウイルス性胃腸炎が多発中で痙攣などを合併した要入院例もいます（第一日赤有吉先生、国立病院吉田先生、第二日赤岩佐先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。その他、マイコプラズマを含む肺炎・気管支炎、RSウイルス感染症、ムンプス髄膜炎、インフルエンザの細菌合併症の報告をいただき（第一日赤有吉先生、城北・渡辺先生、国立・吉田先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。今枝先生からは水痘ワクチン接種歴ある水痘例、大同・水野先生からはインフルエンザワクチン接種歴のある発病例の報告です。麻疹の報告を第一日赤有吉先生、労災・山田先生、大同・水野先生（病棟は麻疹とロタウイルス、流行性角結膜炎で一杯とのこと）からいただいています。流行期をひかえて要注意です。その他溶連菌感染症、水痘、ムンプスが全市的に散発中です。

2.尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎が多発中でインフルエンザ漸減、江南市昭和病院西村先生からは溶連菌感染症、ロタウイルス感染症、インフルエンザ、麻疹が流行中、常滑市民病院上田先生からはインフルエンザA、B型が多いが減少傾向、麻疹、带状疱疹しんあり、溶連菌感染症による発熱持続例ありとのお手紙です。

3.三河地区：トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザは漸減中でロタウイルスがまだ残っている、岡崎市民病院系洲先生からもインフルエンザAとB流行中だがだいぶ減った、知立市近藤先生からはインフルエンザの流行は減少（A、B型ほぼ同じかBがやや多い）、マイコプラズマ感染症散発、ロタウイルスは少数例、カンピロバクタ-腸炎2例、刈谷市田和先生からはインフルエンザは減少傾向、ロタ陽性例を含む感染性胃腸炎による嘔吐・下痢ぼつぼつ、麻疹ワクチン未接種児の麻疹2例、碧南市永井先生からはインフルエンザは続いているが峠をこえた、豊橋市からは感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症、ウイルス性気管支炎、インフルエンザ（2例の筋炎発症例あり）、などのお手紙でした。（市内宮澤先生、長屋先生）。有難うございました。









